

## 今後の児童センターの方向性について

児童センターは50年以上が経過し、施設の老朽化による施設整備のみならず、施設運営や事業内容についても、時代に合った見直しが必要であるため、今後の児童センターの方向性についてあらためて検討を行った。

### 1. 目的

今後の児童センターの機能強化・充実を図るための方向性を定める。

### 2. 検討経緯

R4 1～3月 「児童センターのあり方に関するアンケート」による基礎調査

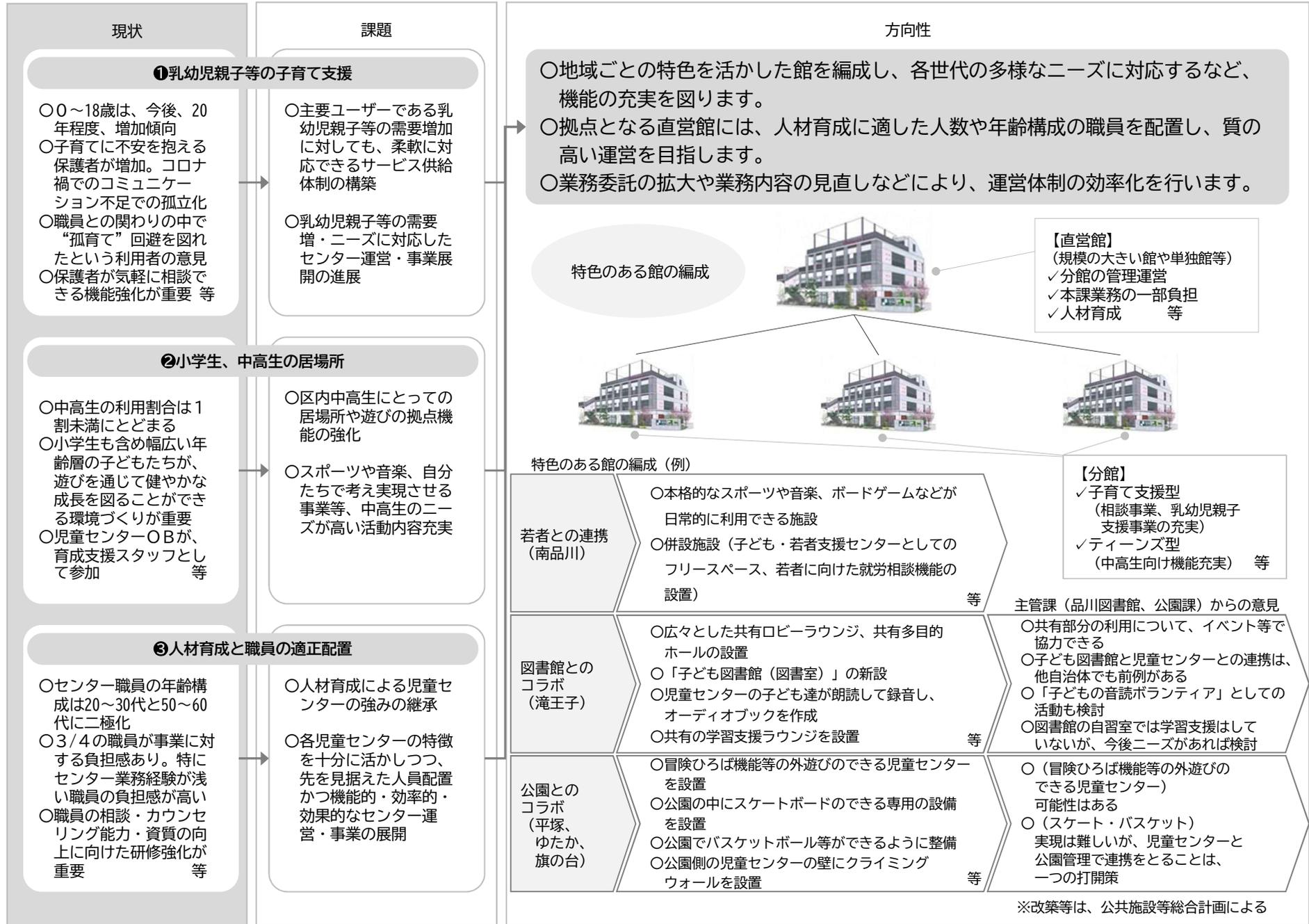
6～11月 児童センター職員アンケート調査、児童センター職員によるワークショップ、有識者との意見交換会、庁内検討会

R5 1月 「今後の児童センターの方向性」を策定

### 3. 今後について

R5年度以降、拠点となる直営館の整理や特色を活かした改築、業務内容の見直し等について、具体的な検討を進めていく。

# 今後の児童センターの方向性について



※改築等は、公共施設等総合計画による

# 今後の児童センターの方向性

品川区



## 目 次

|    |                                 |    |
|----|---------------------------------|----|
| 1  | 策定にあたって.....                    | 1  |
| 2  | 児童センターを取り巻く現状.....              | 2  |
|    | （1）区の0～18歳の人口推計.....            | 2  |
|    | （2）児童センターの施設概要.....             | 5  |
|    | （3）児童センターのあり方に関するアンケート調査結果..... | 8  |
|    | （4）職員アンケート調査結果.....             | 14 |
|    | （5）ヒアリング調査結果.....               | 23 |
|    | （6）児童センターを取り巻く現状.....           | 24 |
| 3  | 児童センターの課題と今後の方向性.....           | 25 |
| 資料 | 各種名簿.....                       | 27 |



# 1 策定にあたって

品川区（以下、本区）では、昭和41年（1966年）に中延児童センターを開館して以来、50年以上にわたり、児童福祉法による児童厚生施設として、児童の健全育成のため、子どもたちへ遊び場と機会を提供するなど、児童の自立の援助や子育て家庭の支援に取り組んできました。

品川区の人口動向をみると、全国的な少子高齢化の進行とは若干異なり、0～18歳人口が増加傾向にあり、今後も暫くは増加が継続することが予想され、児童センターの重要性はさらに高まると想定されます。また、コロナ禍での新たな生活様式への対応に加えて、児童・生徒等への虐待予防や児童相談の機能強化、中高生の居場所づくりの充実、子育て家庭へのきめ細かな支援の充実等、児童センターが取り組むべき課題は山積しています。

施設面では、区内25館の児童センターのうち、築40年以上が21館を占め、うち11館は築50年を超えています。また、ほとんどが保育園や図書館等との複合施設であり、大規模改修や改築に際しては、他の施設の機能を含めた視点・調整が必要となります。

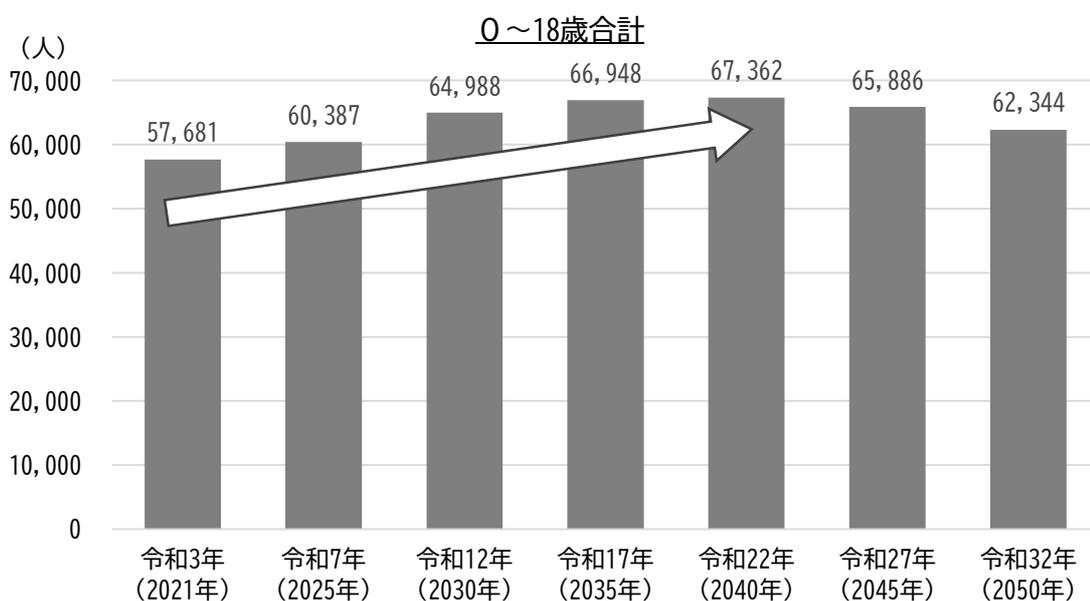
今後、児童センターの機能強化・充実を図るため、児童センターのあり方をあらためて検討し、方向性を定めることとなりました。

## 2 児童センターを取り巻く現状

### (1) 区の0～18歳の人口推計

#### ①全体

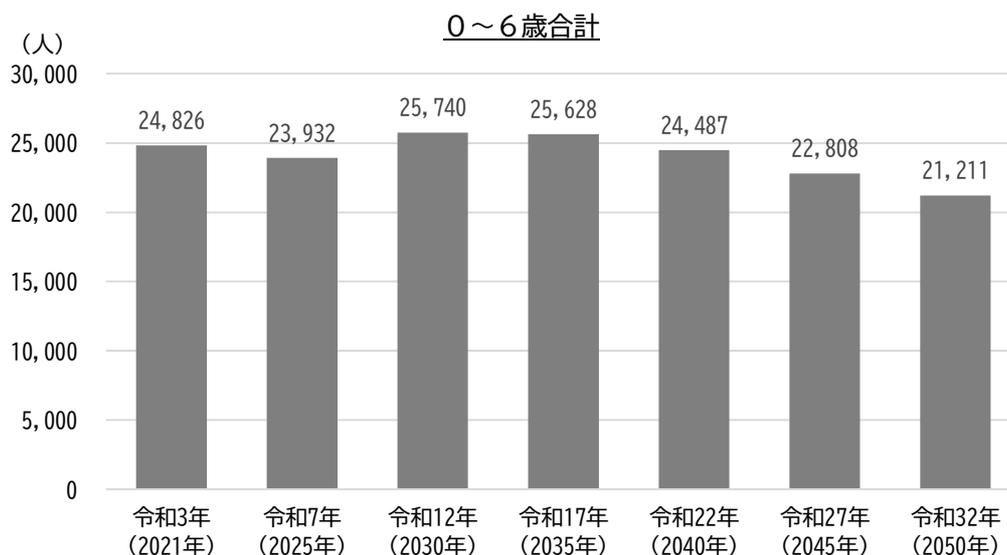
令和3年(2021年)を基準年として、区の0～18歳の人口推計をみると、今後、20年程度は増加傾向が続き、令和22年(2040年)には約6万7千人に達し、その後減少に転じることが想定されます。



## ②年齢層別

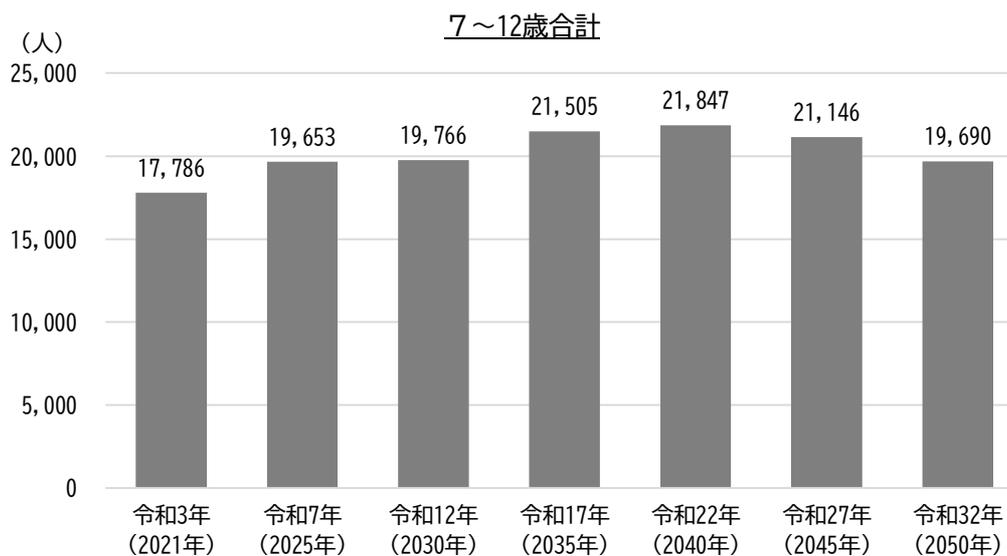
### a) 0～6歳

0～6歳の人口推計をみると、令和7年（2025年）に若干減少しますが、その後増加に転じ、令和12年（2030年）、令和17年（2035年）には約2万5千人台に達し、その後減少に転じることが想定されます。



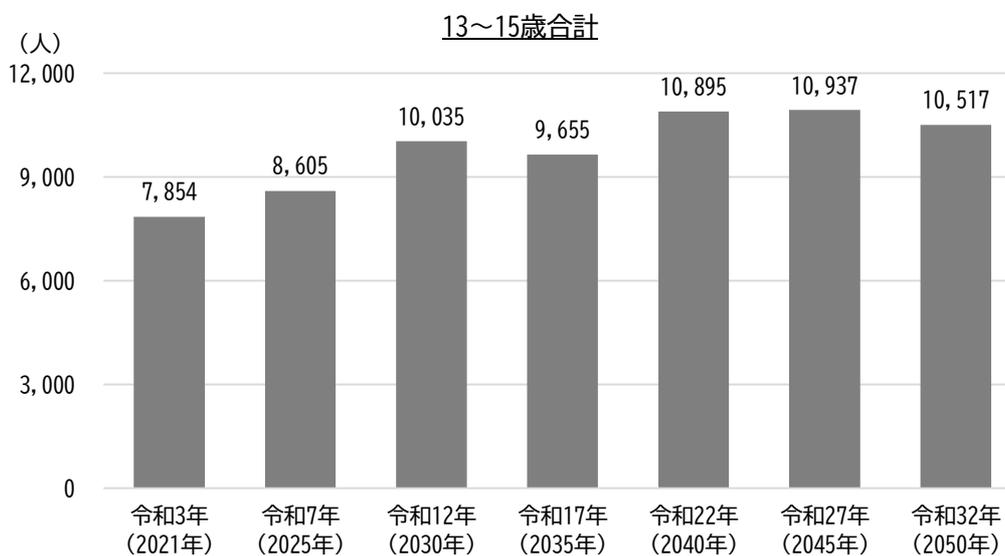
### b) 7～12歳

7～12歳の人口推計をみると、令和22年（2040年）までは総じて増加傾向が続き、その後、減少に転じることが想定されます。



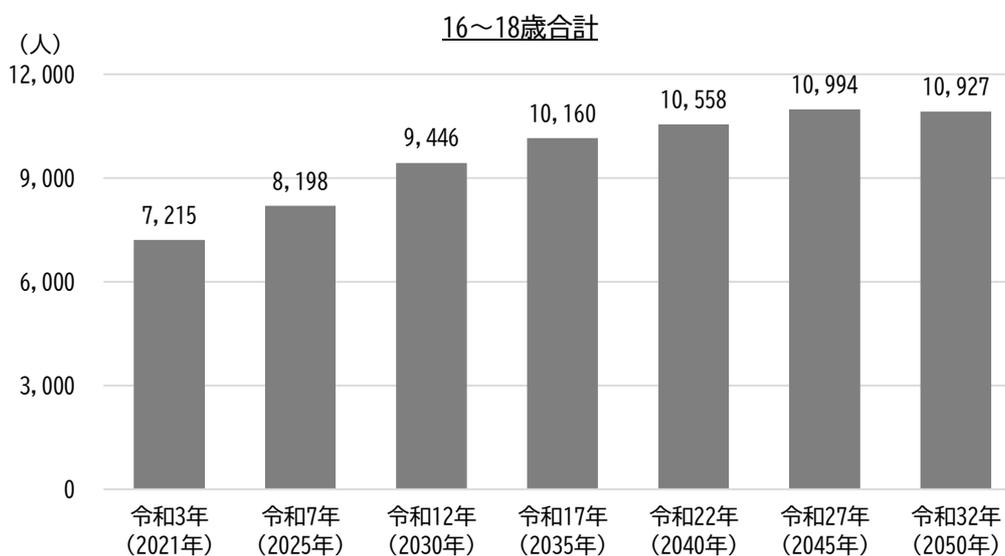
### c) 13～15 歳

13～15 歳の人口推計をみると、令和 27 年（2045 年）までは一時減少はあるものの、総じて増加傾向が続き、その後、減少に転じることが想定されます。



### d) 16～18 歳

16～18 歳の人口推計をみると、令和 27 年（2045 年）までは増加傾向が続き、令和 32 年（2050 年）に 1 万 9 百人台と高位で推移することが想定されます。



## (2) 児童センターの施設概要

### ①概況

児童センターは、児童の健全育成を目的とした児童福祉法の第40条に規定された児童厚生施設です。区内には、児童センターが25館あり、子どもの遊びを指導する児童指導員がおり、10館に子育てネウボラ相談員が配置されています。

0歳から18歳までの児童と子育て世帯を対象に、不特定多数の幅広い世代が、気軽に自由に利用できる、児童の健全育成の拠点施設として運営しています。また、相談事業、ライフステージ（乳幼児・小学生・中学生・高校生・保護者）対応事業、地域連携事業を大きな柱として、事業展開しています。さらに、児童の健全育成を目的として活動に携わる方々の活動を支援しています。



|     |                             |  |
|-----|-----------------------------|--|
| 根拠法 | 児童福祉法                       | (第40条) 児童厚生施設は、児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする施設とする。                                    |
|     | 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準（厚生労働省令） | (第37条) 児童館等屋内の児童厚生施設には、集会室、遊戯室、図書室及び便所を設けること。<br>(第38条) 児童厚生施設には、児童の遊びを指導する者を置かなければならない。保育士、社会福祉士、教員免許保有者等 |

## ②建物概要

区内 25 館の児童センターの総延床面積は 14,192.7m<sup>2</sup>であり、1 館平均で 567.7m<sup>2</sup>となっています。

平均築年数は 44 年となっており、築年数が 50 年を超える館が 11 館あり、老朽化が進んでいます。

複合施設の状態をみると、25 館中 21 館（84.0%）が保育園や図書館等との複合施設となっています。

なお、現時点では、直営館が 13 館、委託館が 12 館となっています。

| No | 施設名        | 住所         | 延床面積                  | 建築年                     |        |     | 開設年      | 併設施設                      | 改築<br>(予定) |
|----|------------|------------|-----------------------|-------------------------|--------|-----|----------|---------------------------|------------|
|    |            |            |                       | 西暦                      | (年号)   | 築年数 |          |                           |            |
| 1  | 三ツ木児童センター  | 西品川2-6-13  | 400.1 m <sup>2</sup>  | 1965年                   | (昭40年) | 57年 | 昭49.7.20 | —                         |            |
| 2  | 中延児童センター   | 西中延1-6-16  | 435.5 m <sup>2</sup>  | 1966年                   | (昭41年) | 56年 | 昭41.7.1  | 中延保育園                     |            |
| 3  | 北品川児童センター  | 北品川2-7-21  | 402.0 m <sup>2</sup>  | 1967年                   | (昭42年) | 55年 | 昭42.5.1  | 北品川保育園                    |            |
| 4  | 西中延児童センター  | 西中延3-8-5   | 398.0 m <sup>2</sup>  | 1967年                   | (昭42年) | 55年 | 昭42.5.1  | 西中延保育園                    |            |
| 5  | ゆたか児童センター  | 豊町1-18-15  | 818.0 m <sup>2</sup>  | 1968年                   | (昭43年) | 54年 | 昭43.6.1  | ゆたか保育園                    |            |
| 6  | 一本橋児童センター  | 大井2-25-1   | 322.0 m <sup>2</sup>  | 1969年                   | (昭44年) | 53年 | 昭44.4.1  | 一本橋保育園                    | R6.4頃      |
| 7  | 東五反田児童センター | 東五反田5-24-1 | 353.0 m <sup>2</sup>  | 1970年                   | (昭45年) | 52年 | 昭45.10.1 | 東五反田保育園                   | R10.9頃     |
| 8  | 東中延児童センター  | 東中延2-5-10  | 611.0 m <sup>2</sup>  | 1970年                   | (昭45年) | 52年 | 昭45.6.1  | 東中延保育園                    |            |
| 9  | 東品川児童センター  | 東品川1-34-9  | 576.0 m <sup>2</sup>  | 1971年                   | (昭46年) | 51年 | 昭46.8.1  | 東品川保育園                    |            |
| 10 | 南大井児童センター  | 南大井3-7-13  | 402.0 m <sup>2</sup>  | 1971年                   | (昭46年) | 51年 | 昭46.7.1  | 南大井保育園、南大井図書館、南大井シルバーセンター |            |
| 11 | 旗の台児童センター  | 旗の台5-19-5  | 532.0 m <sup>2</sup>  | 1972年                   | (昭47年) | 50年 | 昭47.9.1  | 旗の台文化センター、旗の台保育園          |            |
| 12 | 中原児童センター   | 小山1-4-1    | 589.0 m <sup>2</sup>  | 1973年                   | (昭48年) | 49年 | 昭48.7.1  | 中原保育園                     | R7.9頃      |
| 13 | 富士見台児童センター | 西大井6-1-8   | 553.0 m <sup>2</sup>  | 1974年                   | (昭49年) | 48年 | 昭49.7.1  | 富士見台保育園                   |            |
| 14 | 大井倉田児童センター | 大井4-11-34  | 517.7 m <sup>2</sup>  | 1975年                   | (昭50年) | 47年 | 昭50.10.1 | 大井倉田保育園                   |            |
| 15 | 伊藤児童センター   | 西大井6-13-1  | 300.4 m <sup>2</sup>  | 1976年                   | (昭51年) | 46年 | 昭51.8.1  | 伊藤保育園                     |            |
| 16 | 南品川児童センター  | 南品川4-5-28  | 604.9 m <sup>2</sup>  | 1978年                   | (昭53年) | 44年 | 昭55.4.1  | —                         |            |
| 17 | 滝王子児童センター  | 大井5-19-14  | 686.4 m <sup>2</sup>  | 1978年                   | (昭53年) | 44年 | 昭53.5.1  | 大井図書館                     |            |
| 18 | 平塚児童センター   | 平塚2-2-3    | 799.0 m <sup>2</sup>  | 1979年                   | (昭54年) | 43年 | 昭54.5.1  | 平塚保育園                     |            |
| 19 | 後地児童センター   | 小山2-9-19   | 522.6 m <sup>2</sup>  | 1979年                   | (昭54年) | 43年 | 昭54.7.1  | 後地シルバーセンター                |            |
| 20 | 小関児童センター   | 北品川5-8-15  | 628.7 m <sup>2</sup>  | 1981年                   | (昭56年) | 41年 | 昭56.5.1  | —                         |            |
| 21 | 水神児童センター   | 南大井5-13-19 | 527.1 m <sup>2</sup>  | 1981年                   | (昭56年) | 41年 | 昭56.4.1  | —                         |            |
| 22 | 大原児童センター   | 戸越6-16-1   | 465.1 m <sup>2</sup>  | 1983年                   | (昭58年) | 39年 | 昭58.4.1  | 品川児童学園分室戸越ルーム             |            |
| 23 | 八潮児童センター   | 八潮5-10-27  | 1817.0 m <sup>2</sup> | 1983年                   | (昭58年) | 39年 | 昭58.4.1  | 八潮地域センター、八潮区民集会所、八潮図書館    |            |
| 24 | 南ゆたか児童センター | 豊町4-17-21  | 425.1 m <sup>2</sup>  | 2021年                   | (令3年)  | 1年  | 昭46.5.1  | 南ゆたか保育園                   | R3.4.1     |
| 25 | 東大井児童センター  | 東大井1-22-16 | 507.1 m <sup>2</sup>  | 2022年                   | (令4年)  | 0年  | 昭43.6.1  | 東大井保育園                    | R4.9.20    |
|    |            |            | 総数                    | 14192.7 m <sup>2</sup>  |        |     |          |                           |            |
|    |            |            | 平均                    | 567.7096 m <sup>2</sup> |        |     | 平均       | 44年                       |            |

※築年数については令和4年（2022年度）現在。網掛けは直営館。

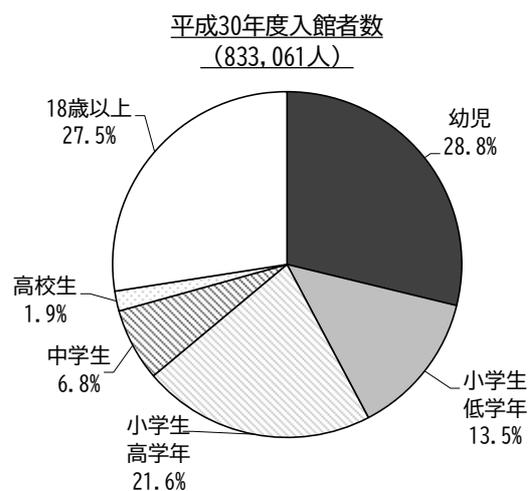
### ③開館日・開館時間、サンデー子育てサポート、ティーンズプラザ

各児童センターの開館日は、月曜日から土曜日の午前9時から午後6時となっています。また、日曜・休日に開館するサンデー子育てサポート館は6館あり、中高生の様々な活動を支援するティーンズプラザ(週2回午後7時まで開館)は9館となっています。

### ④利用状況

児童センターの入館者数(平成30年度)は、833,061人であり、1日平均人数は2,662人となっています。また、利用者属性をみると、「幼児」「18歳以上(保護者含む)」あわせて56.3%を占めており、次いで「小学生高学年」(21.6%)、「小学生低学年」(13.5%)、「中学生」(6.8%)、「高校生」(1.9%)となっています。

児童センターは、0歳から18歳までの児童を利用対象としていますが、幼児・その保護者及び小学生の利用が中心となっており、中学生、高校生の利用人数は少なく、両者あわせても1割未満の状況です。



### ⑤品川区公共施設等総合計画における子育て支援施設の管理の考え方

「品川区公共施設等総合計画(平成29年)」によると、児童センターを含めた子育て支援施設の現状と課題として、以下の2点が挙げられています。

- 1) 他施設との複合施設が多く、大規模改修や改築の際は施設全体としての調整が必要です。
- 2) 改修等の際は、仮移転用地を確保するなど、運営を継続しながら実施する工事手法の検討が必要です。

また、マネジメントの方向性として、以下の2点が挙げられています。(※児童センターにかかわるもの)

- 1) 既存施設・跡施設等の空き施設を有効活用します。
- 2) 児童センターについては、建替え・大規模改修のタイミングで、ネウボラ相談機能の充実や多世代が交流できる施設への転用なども含めて検討します。

### (3) 児童センターのあり方に関するアンケート調査結果

#### ①調査目的

地域の幅広い世代、区内の子育て事業を運営する団体の児童センターのイメージや求める役割等を把握・分析し、今後の児童センターのあり方を検討するためアンケート調査を実施しました。

#### ②調査実施概要

|      |   |
|------|---|
| 調査対象 | 地域の乳幼児の保護者および小学生から高校生<br>児童センター来館者  |
| 調査方法 | 区内の小・中・義務教育学校（2、5、8年生）、高等学校（1、2年生）、乳幼児親子が利用する施設及び児童センターで、QRコード等が記載された案内文等を配布し、インターネット上で回答 |
| 調査期間 | 令和4年1月11日～1月31日   |
| 回収数  | 乳幼児親子 470件（利用者325：、未利用者：145）<br>児童・生徒 2,044件（利用者412：、未利用者：1,632）                          |

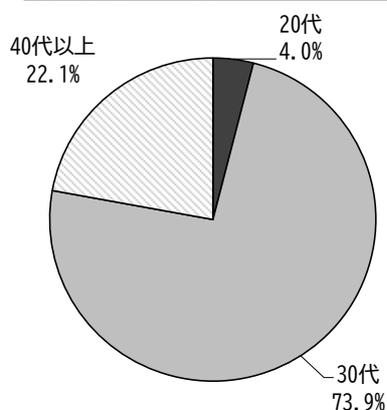
※児童センターの利用頻度が「よく行く（週に2回以上）」、「たまに行く（月に1回～4回程度）」の方を《利用者》、児童センターを「知らない」、または児童センターの利用頻度が「あまり行かない（2、3か月に1回程度）」、「ほとんど行かない、行ったことがない」の方を《未利用者》と定義して、集計、とりまとめられています。

#### ③回答者属性

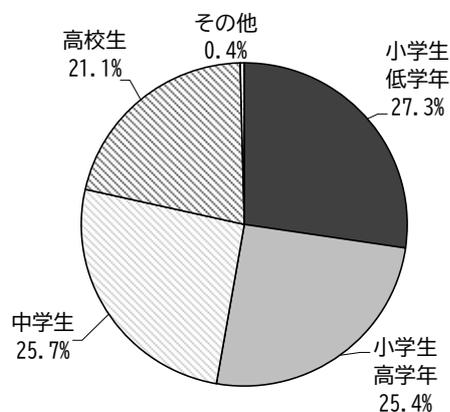
乳幼児親子の保護者の年代は「30代」（73.8%）が最も高く、次いで「40代以上」（22.1%）となっています。

また、生徒・児童については、「小学生低学年」「小学生高学年」「中学生」「高校生」の全ての層が2割以上となっています。

乳幼児親子の保護者の年代 (n=470)



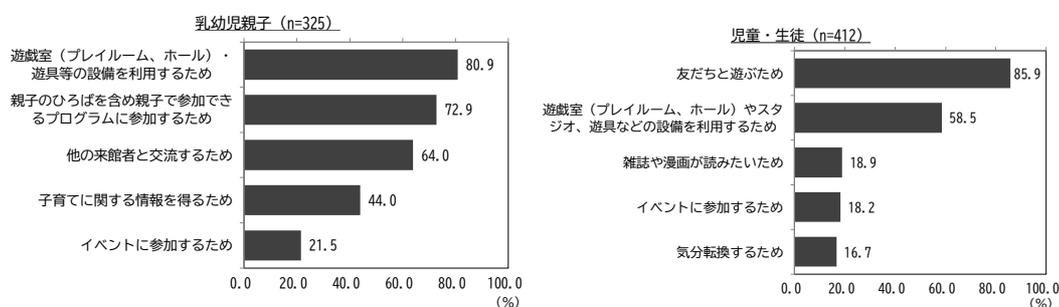
生徒・児童 (n=2,044)



#### ④ 《利用者》 利用する目的

利用する目的について、乳幼児親子では、「遊戯室（プレイルーム、ホール）・遊具等の設備を利用するため」（80.9%）が最も高く、次いで「親子のひろばを含め親子で参加できるプログラムに参加するため」（72.9%）、「他の来館者と交流するため」（64.0%）となっています。

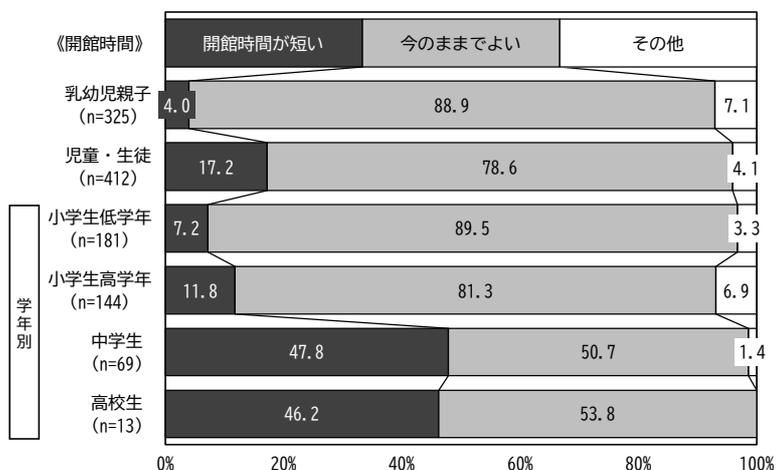
また、児童・生徒では、「友だちと遊ぶため」（85.9%）が最も高く、次いで「遊戯室（プレイルーム、ホール）やスタジオ、遊具などの設備を利用するため」（58.5%）、「雑誌や漫画が読みたいため」（18.9%）となっています。学年別でみると、「小学生高学年」では「友だちと遊ぶため」が全体よりも高く、「中学生」「高校生」では「遊戯室（プレイルーム、ホール）やスタジオ、遊具などの設備を利用するため」が全体よりも高くなっています。



※ともに上位5項目

#### ⑤ 《利用者》 開館時間

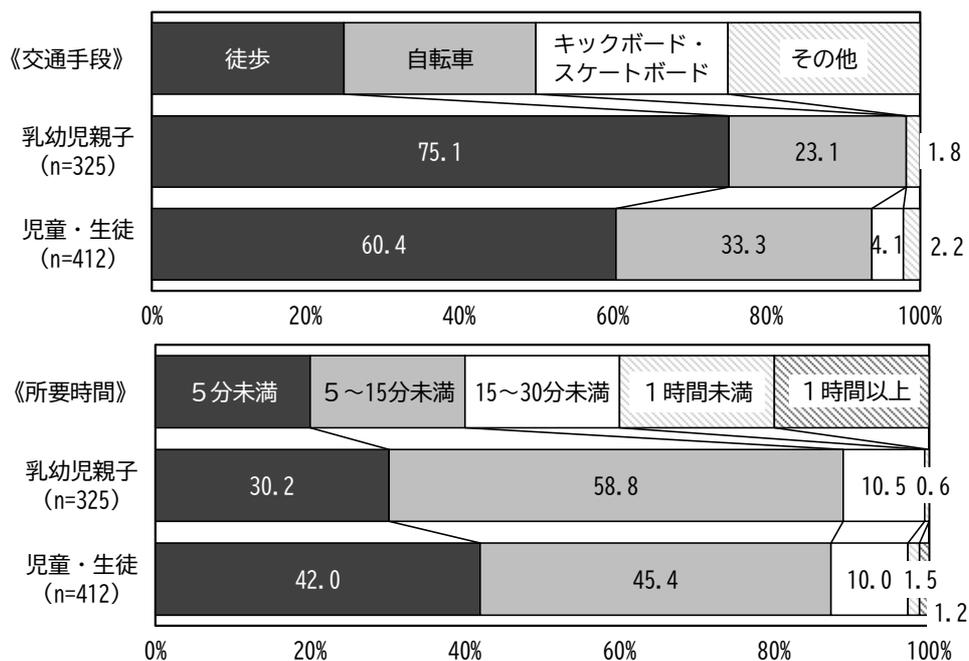
開館時間について、乳幼児親子、児童・生徒ともに「今のままでよい」が圧倒的に高く、「開館時間が短い」は乳幼児親子で4.0%、児童・生徒で17.2%にとどまっています。一方、児童・生徒を学年別でみると、「中学生」「高校生」とともに「開館時間が短い」が4割半ばを占め高くなっています。



## ⑥ 《利用者》 児童センターへの交通手段・所要時間

児童センターへの交通手段について、乳幼児親子、児童・生徒ともに「徒歩」が最も高く、次いで「自転車」となっており、乳幼児親子、児童・生徒の9割以上が徒歩・自転車圏からの来館となっています。

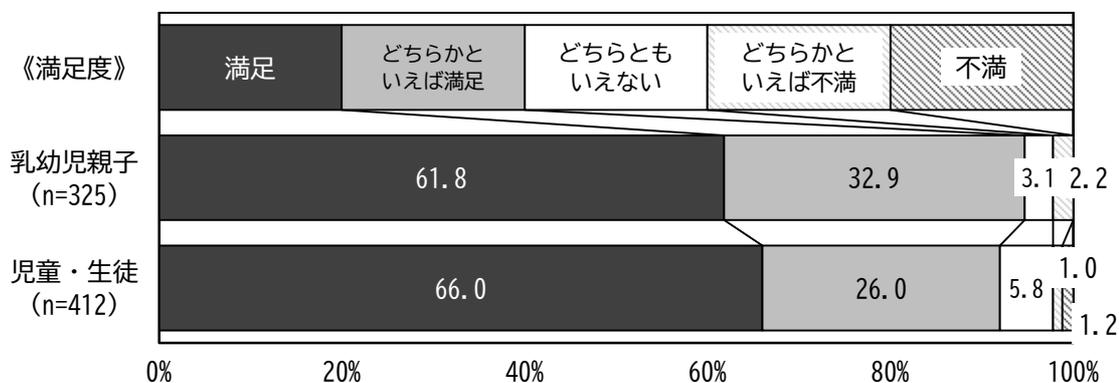
また、児童センターへの所要時間について、乳幼児親子、児童・生徒ともに「5分未満」「5～15分未満」あわせて9割弱となっています。



## ⑦ 《利用者》 満足度

児童センターの満足度について、乳幼児親子、児童・生徒ともに「満足している」「どちらかといえば満足している」をあわせた肯定層が9割を超えています。

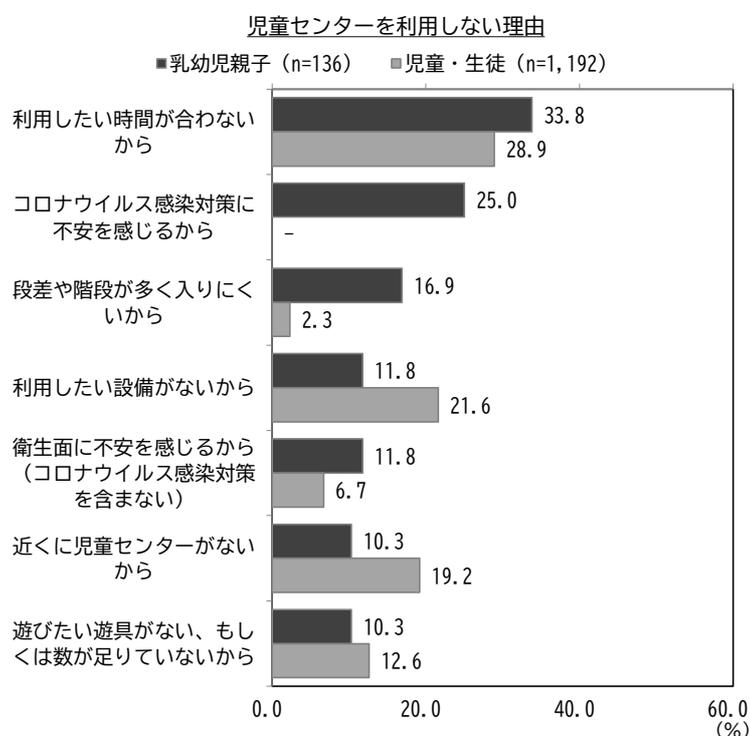
また、児童・生徒を学年別でも、「小学生低学年」「小学生高学年」「高校生」において、肯定層が9割を超えています。



### ⑧ 《未利用者》 児童センターを利用しない理由

児童センターを利用しない理由について、乳幼児親子、児童・生徒ともに「利用したい時間が合わないから」が最も高くなっていますが、2番目以降については、乳幼児親子では「コロナウイルス感染対策に不安を感じるから」「段差や階段が多く入りにくいから」となっている一方、児童・生徒では「利用したい設備がないから」「近くに児童センターがないから」となっています。

また、児童・生徒を学年別でみると、「小学生低学年」では「近くに児童センターがないから」、「中学生」では「利用したい時間が合わないから」、「高校生」では「利用したい設備がないから」が最も高くなっています。



※乳幼児親子で降順（上位7項目）。

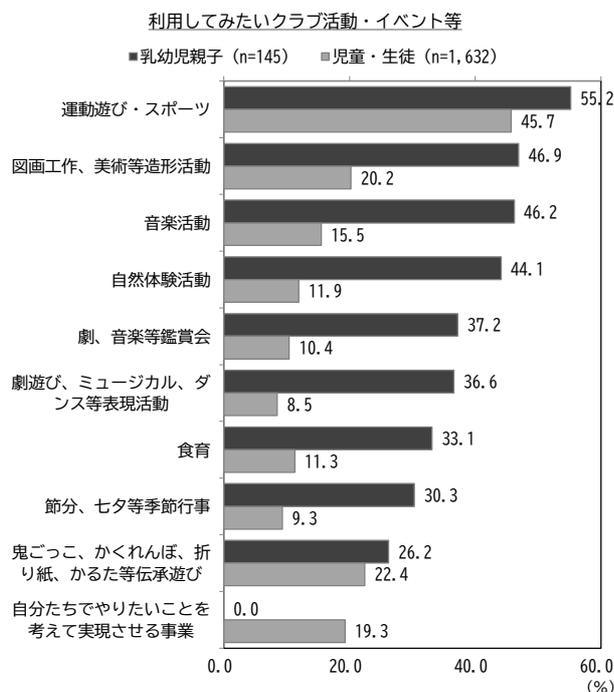
※「コロナウイルス感染対策に不安を感じるから」は乳幼児親子のみに聴取。

|        | n   | 利用したい時間が合わないから | 利用したい設備がないから | 近くに児童センターがないから | 遊びたい遊具がない、もしくは数が足りていないから |
|--------|-----|----------------|--------------|----------------|--------------------------|
| 小学生低学年 | 304 | 21.4%          | 7.6%         | 29.3%          | 9.2%                     |
| 小学生高学年 | 321 | 26.2%          | 18.7%        | 17.8%          | 16.5%                    |
| 中学生    | 418 | 38.5%          | 29.2%        | 13.2%          | 14.6%                    |
| 高校生    | 148 | 23.6%          | 35.8%        | 18.2%          | 5.4%                     |

## ⑨ 《未利用者》利用してみたいクラブ活動・イベント等

利用してみたいクラブ活動・イベント等について、乳幼児親子、児童・生徒ともに「運動遊び・スポーツ」が最も高く、次いで乳幼児親子では「図画工作、美術等造形活動」、児童・生徒では「鬼ごっこ、かくれんぼ、折り紙、かるた等伝承遊び」と続きます。3番目以降については、乳幼児親子では「音楽活動」「自然体験活動」の一方、児童・生徒では、「図画工作、美術等造形活動」「自分たちでやりたいことを考えて実現させる事業」となっています。

また、児童・生徒を学年別で見ると、全ての学年で「運動遊び・スポーツ」が最も高くなっていますが、2番目以降については、「小学生低学年」「小学生高学年」では「鬼ごっこ、かくれんぼ、折り紙、かるた等伝承遊び」「図画工作、美術等造形活動」となっている一方、「中学生」「高校生」では「自分たちでやりたいことを考えて実現させる事業」「音楽活動」となっています。



※乳幼児親子で降順（上位10項目）。

※「自分たちでやりたいことを考えて実現させる事業」は児童・生徒のみに聴取。

|        | n   | 運動遊び・スポーツ | 伝承遊び  | 図画工作、美術等造形活動 | 自分たちでやりたいことを考えて実現させる事業 | 音楽活動  |
|--------|-----|-----------|-------|--------------|------------------------|-------|
| 小学生低学年 | 377 | 50.1%     | 43.5% | 39.0%        | 18.6%                  | 15.6% |
| 小学生高学年 | 376 | 44.1%     | 22.3% | 23.7%        | 17.0%                  | 11.4% |
| 中学生    | 457 | 48.4%     | 13.6% | 8.8%         | 17.5%                  | 13.8% |
| 高校生    | 419 | 40.1%     | 12.9% | 12.9%        | 24.1%                  | 21.0% |

## ⑩児童センターへの要望・児童センターの特徴

### 【設備・備品】

|           |  |
|-----------|--|
| 乳幼児<br>親子 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○階段で赤ちゃんを抱っこしたまま移動するのが毎回とても緊張する、エレベーターなどが将来的に設置されれば嬉しい</li> <li>○入口に必ずインターホンがあって、迎えにきてくれるようになると遊びに行きやすい</li> <li>○安全管理の面で気になる部分もある(ガスストーブが赤ちゃん部屋について囲いも注意喚起もない等)</li> <li>○おもちゃの種類を豊富にしてほしい</li> <li>○民間のカフェを併設する等、官民融合した施設になれば楽しい 等</li> </ul> |
| 児童・<br>生徒 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○トランポリンやボルダリングなどアスレチックのような遊びができる所</li> <li>○Wi-Fi を取り入れて欲しい</li> <li>○木工ができたたり、絵の具を使って絵を描いたりできる部屋が欲しい</li> <li>○中、高校生だけの部屋が欲しい</li> <li>○自習室とかも欲しい 等</li> </ul>   |

### 【クラブ活動・講座・イベント】

|           |  |
|-----------|--|
| 乳幼児<br>親子 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○3歳児向けのイベントを土曜日などにやっていただけると嬉しい</li> <li>○季節の行事や近隣地域の会社やお店の方やアーティストなど、地域性を活かしたワークショップなどに参加したい</li> <li>○パパも一緒に参加できるイベントを増やしてほしい</li> <li>○赤ちゃんだけでなく、親子ヨガやママのマッサージなどリフレッシュに繋がる活動があると嬉しい</li> <li>○春休み、夏休み、冬休みの長期休暇こそ母子で行くところがなく時間を持て余すので、クラブを開催して欲しい 等</li> </ul> |
| 児童・<br>生徒 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○クッキングスタジオで料理教室がやりたい</li> <li>○ダンスなどのクラブを18時～20時で募集してほしい</li> <li>○バンドやダンス、太鼓など子どもたちが活動している姿を地域の人に見てもらって地域活性化を望む</li> <li>○ビリヤードとスラックラインと卓球(イベント)を続けて欲しい</li> <li>○体をいっぱい動かす時間がほしい</li> <li>○いろんなイベントをやってほしい(勉強を教えてほしい) 等</li> </ul>                            |

### 【児童センターの特徴】

|           |   |
|-----------|---|
| 乳幼児<br>親子 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍でいつも以上に“孤育て”になりがちだったが、親子クラブの時間中だけでなく、児童センターに遊びに行く時、子どもの名前を覚えてくれていて、声をかけてくださる職員の方々に去年は本当に救われた</li> <li>○親子のひろばを楽しみにしているので、これからも続けてほしい 等</li> </ul> |
| 児童・<br>生徒 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○来年度から大学生になり、児童センターで遊ぶことができなくなってしまうのは正直少し寂しいですが、ボランティアとして今度は訪れたみんな(学生さんやお子様)と「遊んであげる」人として通って行きたい</li> <li>○雨の日でも、遊べるから、あって良かった 等</li> </ul>            |

## (4) 職員アンケート調査結果

---

### ①調査目的

今後の児童センターのあり方を検討するにあたり、現場の職員からみた児童センターの業務や事業、センター職員に求められるスキル、職場環境の現状等を把握・分析することを目的として、アンケート調査を実施しました。

### ②調査実施概要

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 調査対象 | 児童センターに所属する職員 62 名（内 7 名休職中） |
| 調査方法 | 庁内グループウェアのアンケート機能を用いた調査      |
| 調査期間 | 令和 4 年 6 月 24 日～7 月 2 日      |
| 回収数  | 55 件、88.7%（休職中職員除いた場合 100%）  |

#### 児童センターPTによるワークショップの開催

前述の職員アンケート調査とは別に、現場の声をさらに把握するため、児童センターから館長 3 名と主任・主事 4 名による PT を発足し、ワークショップを 3 回開催しました。

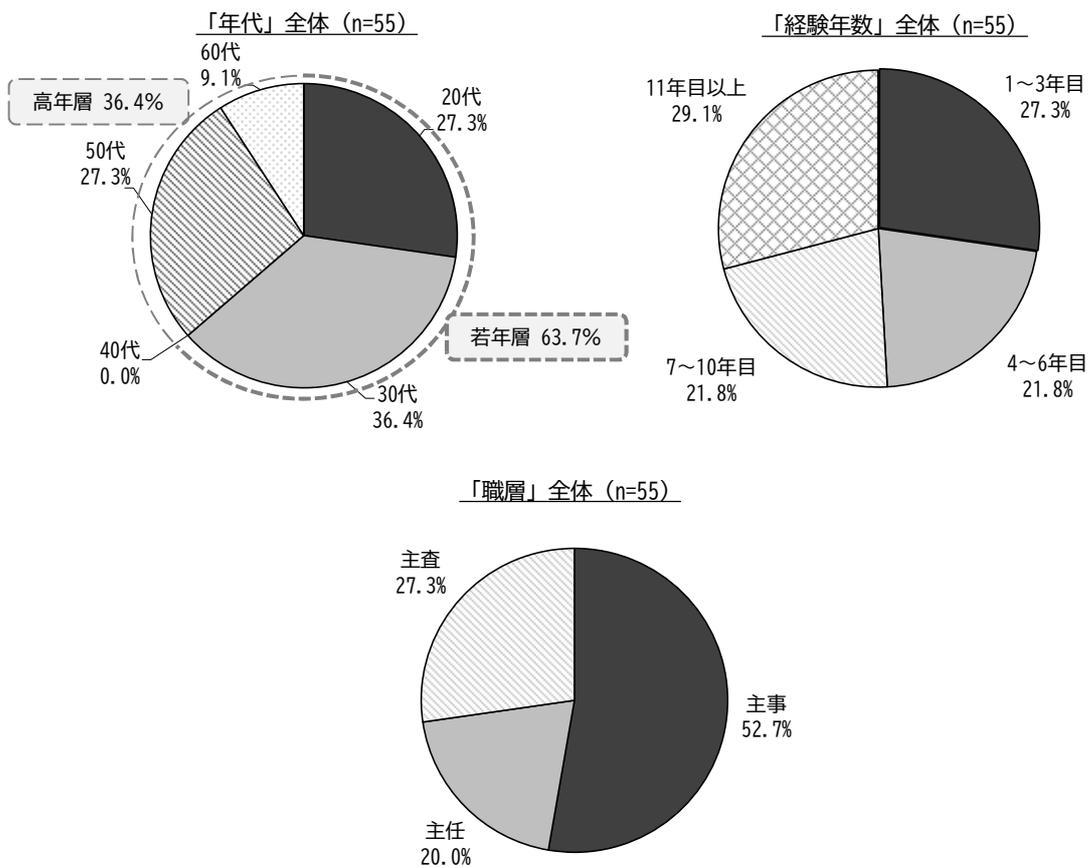
PT では、「児童センターにとって欠かせない取り組みや意義」「今後の児童センターのあり方」「特色ある館の具体的な内容」等について意見交換をしました。PT で出た意見も職員アンケート調査結果の補足として示しています。

### ③回答者属性

#### a) 年代、児童センター経験年数、職層

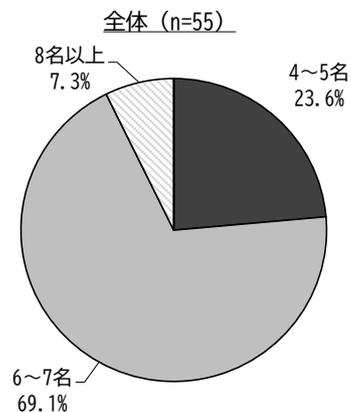
職員の年代をみると、40代がおらず、20～30代が6割強、50～60代が3割半ばと二極化が認められる一方、児童センター経験年数をみると「1～3年目」「4～6年目」「7～10年目」「11年目以上」が全て2割台と均等であり、経験年数による二極化は認められませんでした。

また、職層は、「主事」が52.7%、「主査」が27.3%、「主任」が20.0%となっています。



#### b) 1館に配置する適正な職員数

1館に配置する適正な職員数は、「6～7名」が約7割を占めています。

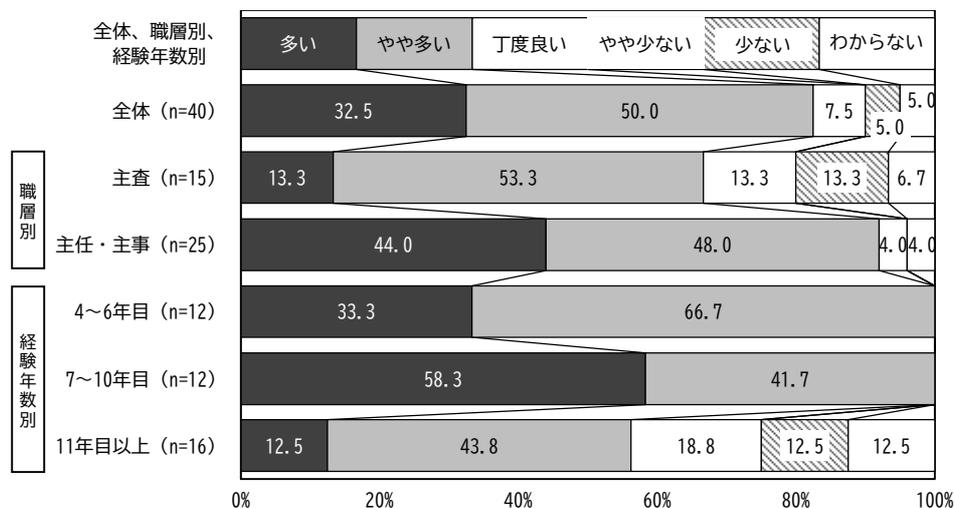


#### ④事業に関して

##### a) コロナ禍「前」の事業数

コロナ禍「前」の事業数については、「多い」「やや多い」あわせて8割を超えており、適正な事業数と捉えていない職員が多いことがうかがえます。

職層別でみると、「主任・主事」では「多い」「やや多い」あわせて9割を超える一方、「主査」では6割半ばにとどまっています。また、児童センター経験年数別でみると、「4～6年目」「7～10年目」では全てが「多い」または「やや多い」と回答しています。

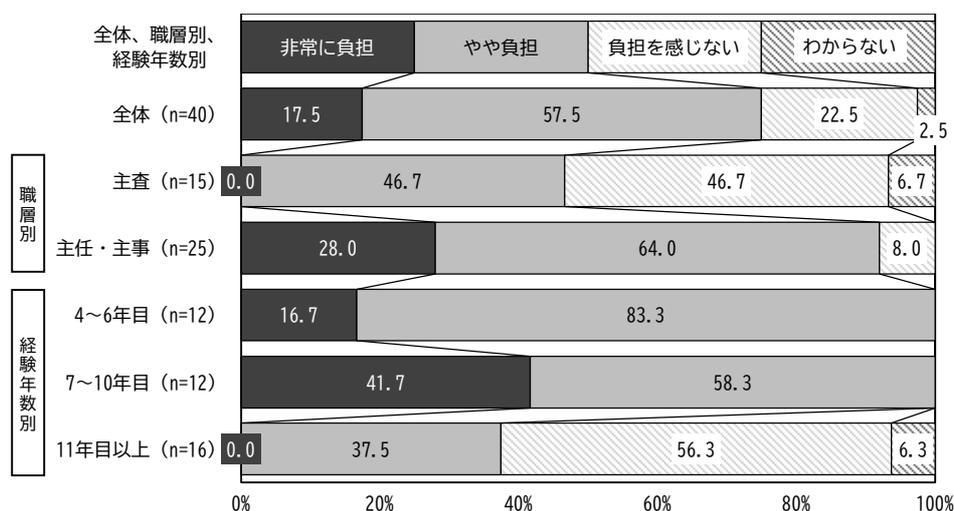


※児童センター経験年数「1～3年目」の職員を除く。

## b) 事業に対する負担感

事業に対する負担感は、「非常に負担」が2割弱となっており、「やや負担」を合わせると3/4の職員が負担感を抱えています。

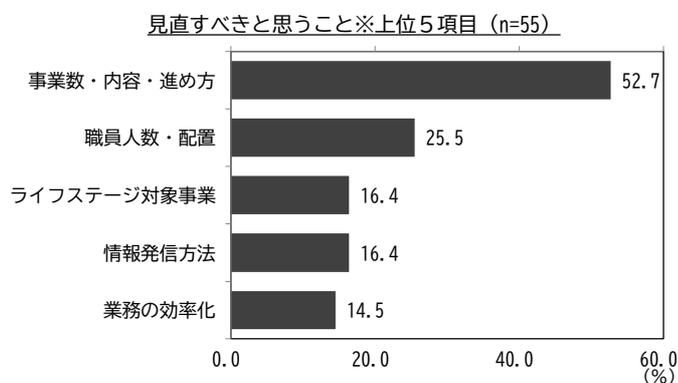
職層別でみると「主任・主事」、児童センター経験年数別でみると「4～6年目」「7～10年目」で負担感が高くなっています。



※児童センター経験年数「1～3年目」の職員を除く。

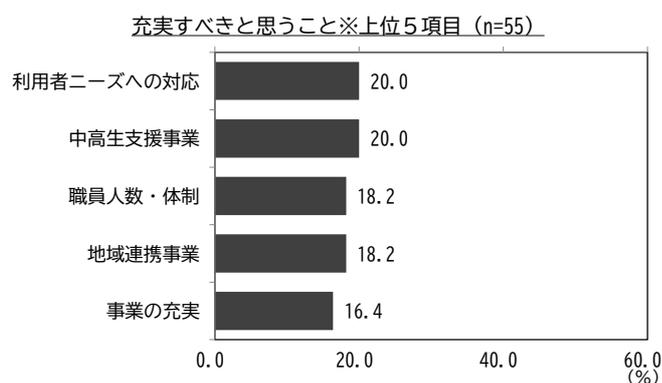
## c) 見直すべきと思うこと

見直すべきと思うことは、「事業数・内容・進め方」が5割強で最も高く、次いで「職員人数・配置」が2割半ば、「ライフステージ対象事業」「情報発信方法」「業務の効率化」が1割半ばとなっています。



## d) 充実すべきと思うこと

充実すべきと思うことは、「利用者ニーズへの対応」「中高生支援事業」(2割)が最も高く、次いで「職員人数・体制」「地域連携事業」が2割弱、「事業の充実」が1割半ばとなっています。



## ⑤児童センター業務について

### a) 乳幼児親子とのかかわりの中で感じていること（主な意見）

|             |   |
|-------------|---|
| 乳幼児親子に関して   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し相手や子育て仲間を求めている</li> <li>○我が子とどう接していいかわからない悩みを抱える親が増え、親同士の交流以上に親子の関係づくりに重点を置く必要がある</li> <li>○子育て相談の内容が親の成育歴にまで至り深刻なケースが増えた</li> <li>○情報収集がとてもし早い人と、何も知らない人の差が大きい</li> <li>○様々な発達の特性を有する親子の増加、理解度が低い 等</li> </ul> |
| 職員やセンターに関して | <ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者との関わり、指導が未熟</li> <li>○職員と繋がっても母同士が繋がりにくいプログラム</li> <li>○親のニーズとずれがある</li> <li>○習い事のような、リトミックや英語など学ぶ機会を求められている</li> <li>○専門的知識(子どもの発達等)が必要な相談対応 等</li> </ul>   |
| 全般、共通       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍でのコミュニケーション不足による子育て不安からの相談・話し相手の必要性</li> <li>○コロナ禍での育児不安</li> <li>○父親の利用率および育休率の増加</li> <li>○多子世帯の利用の増加</li> <li>○ほとんどが仕事復帰するため親子のひろば後の関わりが持てない</li> <li>○安心して過ごせる雰囲気づくりの大切さ 等</li> </ul>                     |

#### ■児童センターPTによるワークショップより

幼稚園児親子の利用の多くは、児童センターでの活動ではなく自分たちだけの居場所を求めている。

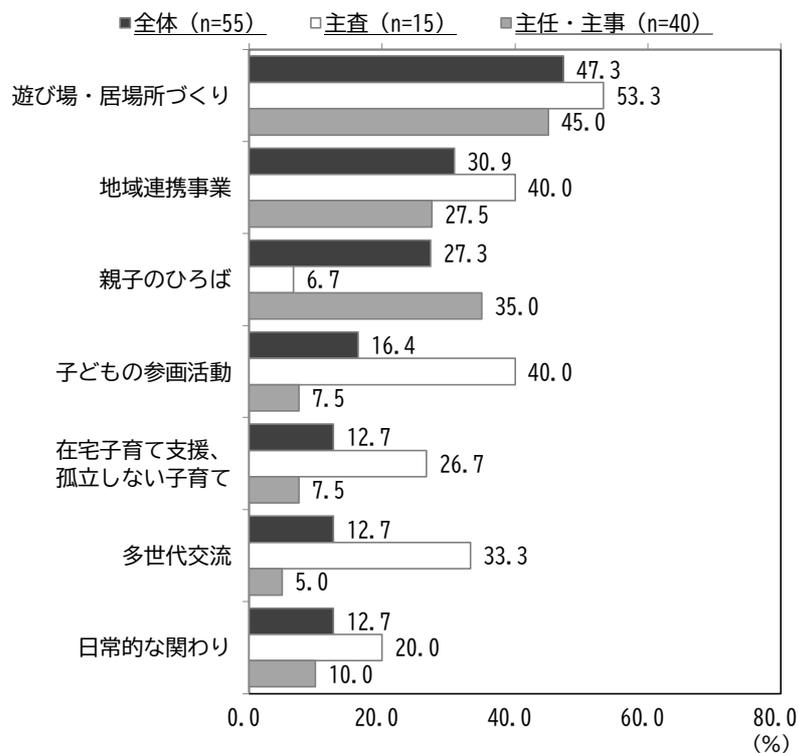
### b) 児童や中高生とのかかわりの中で感じていること（主な意見）

|             |   |
|-------------|---|
| 児童や中高生に関して  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○事業目当てで来館する子は少なく、自分のやりたいこと（スマホ、漫画、宿題等）をいつでもできる居場所を作ることが必要</li> <li>○中学生の利用者が多く、それぞれの抱えている悩みなどに変化がみられる</li> <li>○高校生の利用がほとんどない</li> <li>○学校がない土曜日の来館が習い事や部活等で集客につながらない</li> <li>○自由に安心して遊べる場所を求めて、児童センターに来てくれている 等</li> </ul> |
| 職員やセンターに関して | <ul style="list-style-type: none"> <li>○あそびリーダー力の経験不足</li> <li>○若手職員が多いことは中高生にとっては魅力的な場所だと感じる</li> <li>○中高生には児童センターの案内が届かない</li> <li>○中高生の厳しい状況を改善する相談スキルとコンテンツが必要</li> <li>○部活の無い日曜や祝日だと開いている館が少ない 等</li> </ul>  |
| 全般、共通       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○SNSでのトラブルの増加</li> <li>○コロナの影響でイベントが中止され、制限がかかる中での中高生が活躍できるような場を提供する難しさを感じている</li> <li>○不登校児童にとっての居場所の選択肢に児童センターでもいい</li> <li>○保護者との関係性がうまくいっていない中高生のニーズが児童センターにはある 等</li> </ul>   |

### c) 児童センターに欠かせない取り組み

児童センターに欠かせない取り組みは、「遊び場・居場所づくり」(47.3%)が最も高く、次いで「地域連携事業」(30.9%)、「親子のひろば」(27.3%)、「子どもの参画活動」(16.4%)となっています。

職層別でみると、「主査」「主任・主事」とともに「遊び場・居場所づくり」が最も高くなっていますが、次いで「主査」では「地域連携事業」「子どもの参画活動」が高い一方、「主任・主事」では「親子のひろば」が高くなっています。「主任・主事」とは異なり、「主査」では「地域密着」の視点を重要視していることが特徴的です。



※全体による降順での上位7項目。

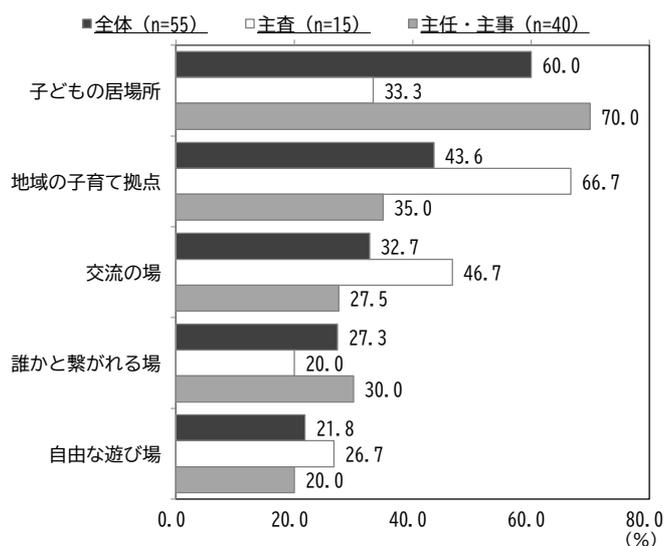
#### ■児童センターPTによるワークショップより

子ども達が自分の意見を出すことや自分たちで決めることなどの子ども達が参画する経験は大事なことです。手間暇かけるところは手をかけないといけません。

#### d) 児童センターの意義

児童センターがある意義は、「子どもの居場所」(60.0%)が最も高く、次いで「地域の子育て拠点」(43.6%)、「交流の場」(32.7%)、「誰かと繋がれる場」(27.3%)、「自由な遊び場」(21.8%)となっています。

職層別でみると、「主査」では「地域の子育て拠点」が最も高い一方、「主任・主事」では「子どもの居場所」が最も高くなっています。

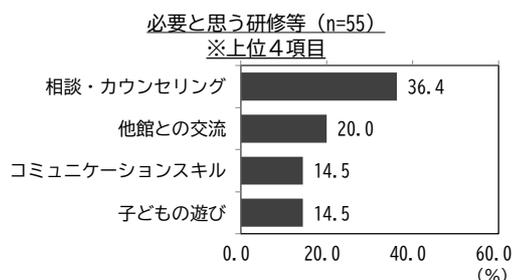
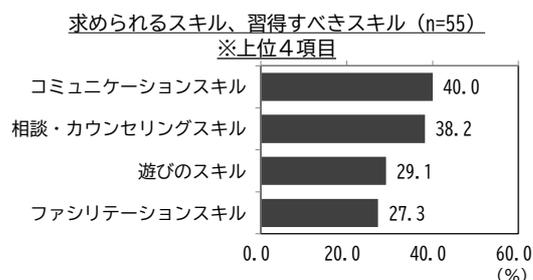


※全体による降順での上位5項目。

#### ⑥職員のスキルについて

職員に求められるスキル、習得すべきスキルは、「コミュニケーションスキル」(40.0%)と「相談・カウンセリングスキル」(38.2%)がほぼ同程度の割合で高くなっています。

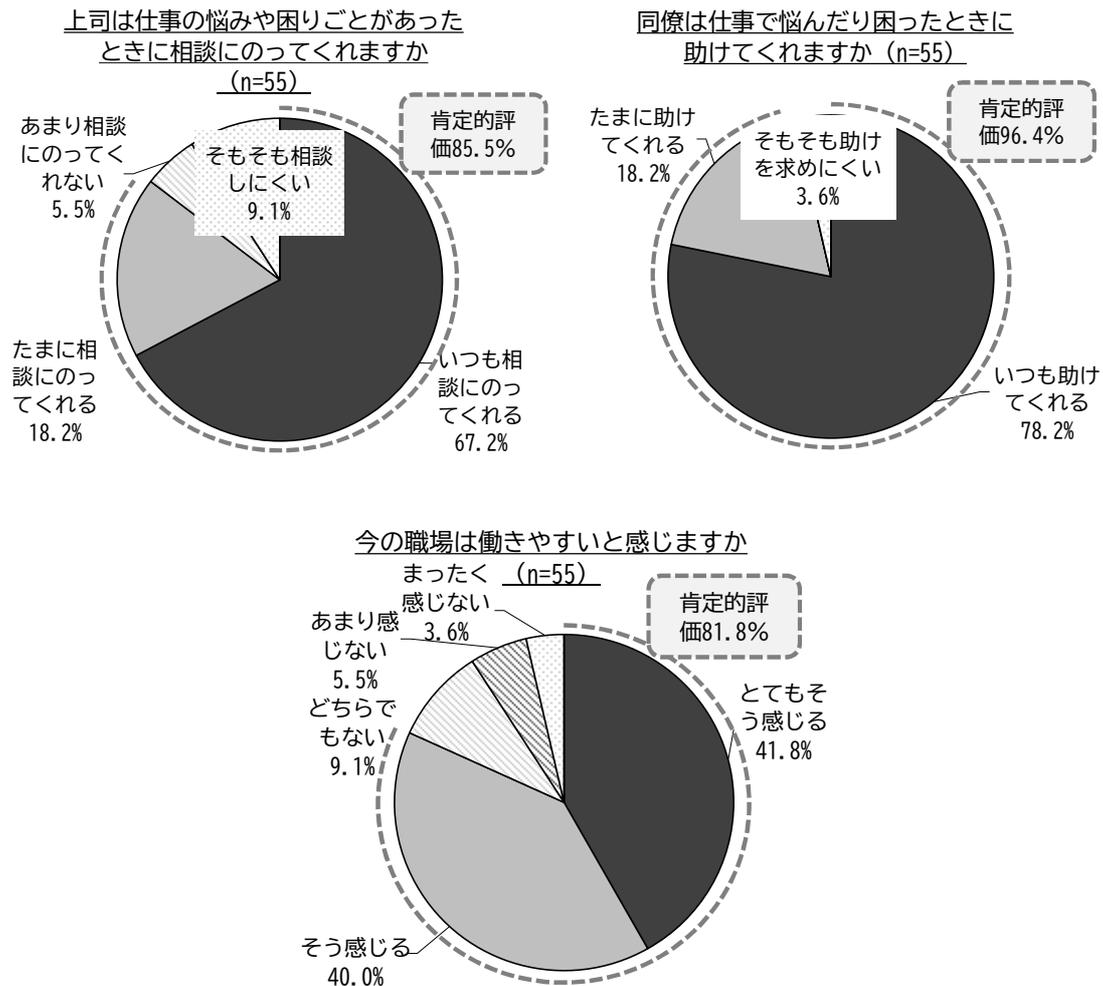
また、必要と思う研修等は、「相談・カウンセリング」(36.4%)が突出して高くなっており、「相談・カウンセリングスキル」向上への職員研修のニーズの高さがうかがえます。



## ⑦職場環境について

### a) 上司への相談、同僚からの支援、働きやすさ

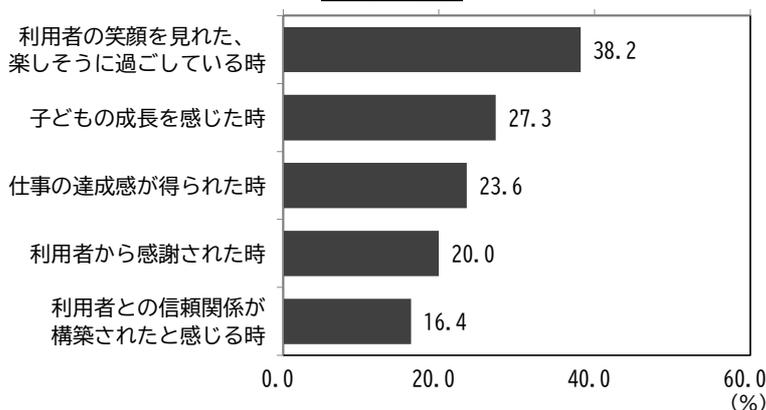
仕事の悩みや困りごとがあったときに上司が相談にのってくれるかについては肯定的評価が8割半ば、仕事で悩んだり困ったときに同僚が助けてくれるかについては肯定的評価が9割半ば、今の職場は働きやすいについては肯定的評価が8割となっており、人間関係の良好な職場環境という状況がうかがえます。



## b) 働き甲斐を感じるのはどういう時ですか

働き甲斐を感じるのはどういう時かについては、「利用者の笑顔を見られた、楽しそうに過ごしている時」(38.2%)が最も高く、次いで「子どもの成長を感じた時」(27.3%)、「仕事の達成感が得られた時」(23.6%)、「利用者から感謝された時」(20.0%)、「利用者との信頼関係が構築されたと感じる時」(16.4%)となっており、利用者に関わる日常での喜びが、児童センター職員として働く際の内発的動機づけになることがうかがえます。

働き甲斐を感じるのはどういう時ですか (n=55)  
※上位5項目



## ⑧その他意見等

意見としては、ICT活用による利便性向上・業務負担軽減、区民・利用者ニーズへの対応、若い職員の育成、居場所機能の強化、人員不足への対応、子どもが安心して過ごせる環境づくり・居心地の良さを感じてもらえる関係性構築、外部人材を活用した効率的なセンター運営等が挙げられています。

- 配信形式を変えられたら環境にも配慮でき学校や職員の負担の軽減につながると思う
- 区民のニーズにこたえていくことや、世代間のニーズにもこたえていくことが重要
- 先を見る力や創造力が若い職員に育っていくよう育成力をつけなければならないと感じる
- 職員がどの館もかなり不足している中で、日常の運営とのバランスを考えたほうが良い
- 公共の施設として、利用者が満足するものを考え提供する必要がある
- 子ども達や親子の居場所として存在するために何が必要か、どんな設備があると良いのか考えていきたい
- 子どもが安心して過ごすことができる環境づくり、勉強や遊びのスペース・設備などのハード面と、居心地のいい関係性を築くことで生まれる安心感や居心地の良さを与える社会性が必要になる
- 職員数には限りがあるので地域人材や講師・委託等活用し効率的な運営を目指す
- 人員確保と利用者のニーズに答えられるように多種多様な資格の職員にいてほしい

## (5) ヒアリング調査結果

### ①調査目的

区内で地域の子ども子育て事業を運営している団体を対象として、児童センターとの連携・協働の現状や今後の児童センターの役割としてのニーズを把握するために、ヒアリング調査を実施しました。

### ②調査実施概要

|      |   |
|------|---|
| 調査対象 | NPO 法人そとぼーよ、M-coto 株式会社、株式会社 K-HOUSE              |
| 実施方法 | 予め調査項目概要を設定し、それに基づいて各団体の代表者に対しインタビュー方式による聞き取りを実施。 |
| 調査期間 | 令和4年3月4日～同年3月11日                                  |

### ③調査結果

|                           |   |
|---------------------------|---|
| コロナ禍の影響や今後に向けての課題         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○父親の育児参加は社会的なトレンドであるとともに、コロナ禍によるテレワークの増加に伴う影響もある</li> <li>○品川区はお祭りが多く、新住民にも積極的に声をかけて参加を促すことで地域交流の活性化を図ってきたが、コロナ禍でそういったお祭りが中止になってしまい、交流の機会が減ってしまった</li> <li>○リモート・ワークが増えて家に子どもの居場所がなくなり、虐待やDVなどの問題を抱える家庭が増えている 等</li> </ul>   |
| 児童センターとの連携・協働に関する今後の課題や期待 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童センターの入口は2階以上のところが多く、入りづらいことや中が見えにくいことで、乳幼児親子にとって敷居が高い</li> <li>○児童センターでは既に土日の父親参加のプログラムはあるが、平日の父親参加のプログラムのニーズも高まっている</li> <li>○支援団体が互いの活動をシェアして面と面で行き交うことで、個人のニーズに合わせて他団体を紹介でき、さらに個人とのつながりまで発展することが期待できる</li> <li>○児童センターの職員・スタッフと民間の子育て支援事業者が、互いの顔と顔が分かり合えて両方の特徴や役割を理解した上で、支援が必要な親子を紹介し合える関係が望ましい 等</li> </ul> |
| 行政との連携・協働に関する今後の課題や期待     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○数値目標や評価方法の設定などの客観的な指標の設定や、具体的な行動計画の策定は困難、そういった実務的な面での支援が必要</li> <li>○地域の人たちを包括的にケアするためには児童センターを介して団体同士が繋がるネットワーク形成が必要で、行政のリーダーシップに期待</li> <li>○近年ひろば事業を担う民間団体が増えているが、費用に関しては個人の持ち出しが多く、各々息切れが感じられる 等</li> </ul>   |

## (6) 児童センターを取り巻く現状

### ① 乳幼児親子等の需要増・ニーズに対応したセンター運営・事業展開が重要

児童センターの対象となる0～18歳の人口推計によると、今後、20年程度は増加傾向が見込まれることから、主要ユーザーである乳幼児親子等の需要増加に対しても、柔軟に対応できるサービス供給体制を整えることが重要です。

普段の乳幼児親子とのかかわりの中で、センター職員が感じることとして、子育てに不安を抱える保護者が増えていることや、コロナ禍でのコミュニケーション不足による孤立や不安解消の必要性等が挙げられています。また、乳幼児親子へのアンケート調査結果からは、センター職員との関わりの中で“孤育て”回避を図れたという意見が挙げられています。

こうした点を踏まえて、就学前児童だけでなく、小学生以上の児童を含めた保護者が気軽に相談できる、身近な相談窓口としての機能を強化し、子育て家庭の孤立回避や保護者の不安軽減につなげていくことが求められます。

### ② 小学生、中高生のニーズに対応したセンター運営・事業展開が重要

児童センターの利用状況をみると、中高生の利用割合は1割未満にとどまっており、区内中高生にとっての居場所や遊びの拠点機能の強化が重要です。

スポーツや音楽、自分たちで考え実現させる事業等、中高生のニーズが高い活動内容を充実させつつ、利用意向に沿った開館日・時間を設定することで、中高生の利用を促進することが重要です。

また、利用割合が高い小学生も含めて、幅広い年齢層の子どもたちが、遊びを通じて健やかな成長を図ることができる環境づくりが求められます。

さらに、児童センターOBが、次世代の子どもたちの育成支援スタッフとして参加する等、多世代間交流と学びあい・育ちあいの循環を創出していくことが求められます。

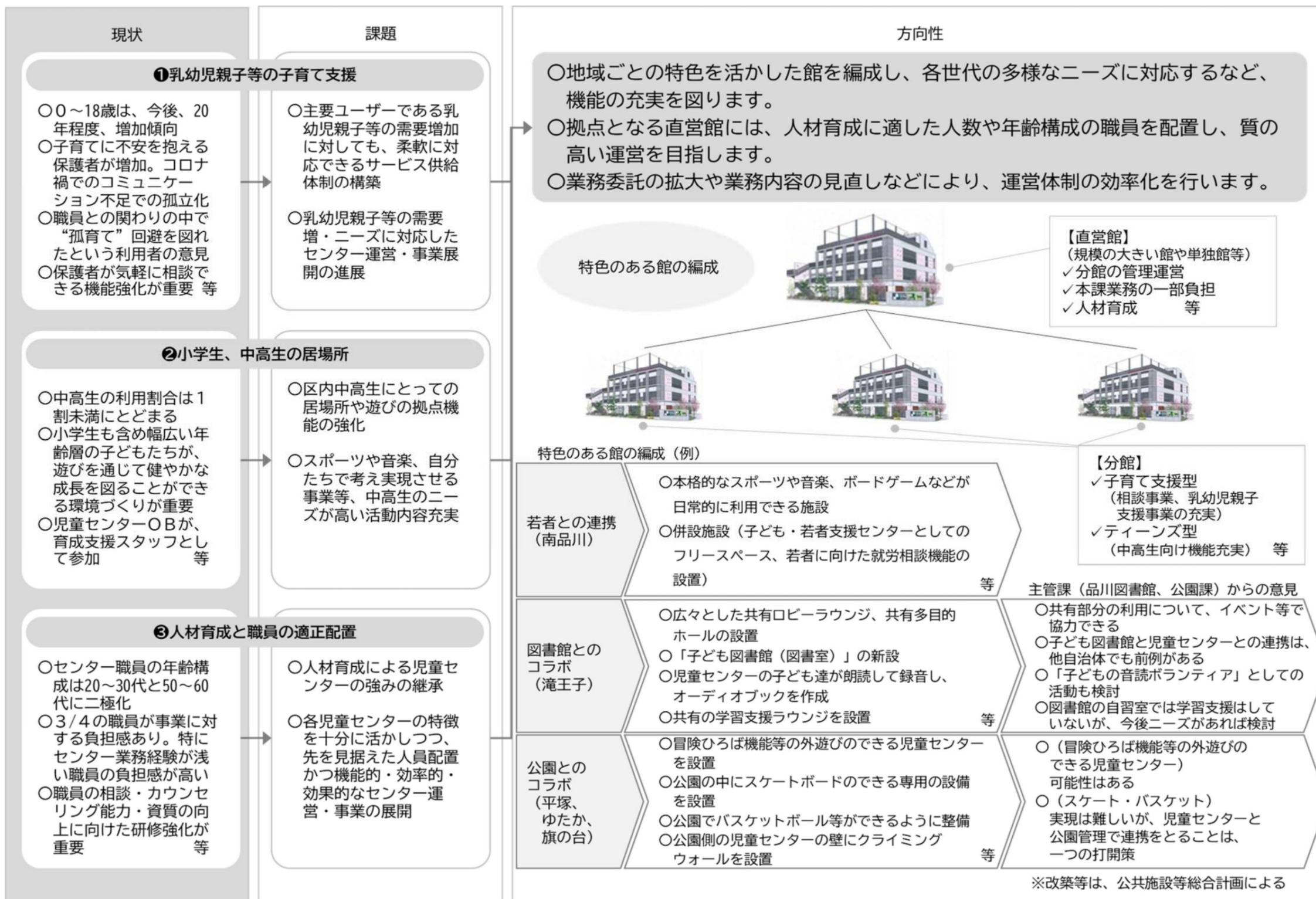
### ③ 人材育成と職員の適正配置による効率的なセンター運営・事業展開が重要

センター職員の年齢構成は、20～30代と50～60代に二極化しており、ベテラン職員が有するノウハウを若手職員に継承し、区の児童センターが蓄積してきた強みを次世代へ引き継いでいくことが重要です。

職員に対するアンケート調査結果から、3/4の職員が事業に対する負担感を抱いており、特に児童センターでの業務経験が浅い職員での負担感が高くなっています。職員の負担感軽減につながる事業のあり方や業務改善などの検討が重要です。同時に、職員の相談・カウンセリング能力・資質の向上に向けた研修強化等、特に若手職員の能力向上、人材育成が重要です。

各児童センターの特徴を十分に活かしつつ、より機能的・効率的・効果的なセンター運営・事業展開が求められます。

### 3 児童センターの課題と今後の方向性



## 資料 各種名簿

### 1 児童センター職員PT構成員名簿【敬称略】

| 職層 | 氏名     | 所属        |
|----|--------|-----------|
| 館長 | 坂川 みどり | 東品川児童センター |
|    | 國井 秀人  | 滝王子児童センター |
|    | 小川 昌史  | 東中延児童センター |
| 主任 | 山森 海   | 平塚児童センター  |
|    | 大家 恵利菜 | 東中延児童センター |
| 主事 | 加藤 広一  | 旗の台児童センター |
|    | 関口 知恵  | ゆたか児童センター |

### 2 有識者名簿【敬称略】

| 所属            | 氏名     |
|---------------|--------|
| 駒澤大学総合教育研究部教授 | 萩原 建次郎 |

### 3 庁内検討会構成員名簿【敬称略】

| 所属        | 氏名     |
|-----------|--------|
| 子ども未来部長   | 柏原 敦   |
| 子ども育成課長   | 廣田 富美恵 |
| 企画調整課長    | 佐藤 憲宜  |
| 施設整備課長    | 小林 剛   |
| 保育課長      | 立木 征泰  |
| 障害者支援課長   | 松山 香里  |
| 公園課長      | 高梨 智之  |
| 品川図書館長    | 吉田 義信  |
| 東品川児童センター | 坂川 みどり |
| 滝王子児童センター | 國井 秀人  |
| 東中延児童センター | 小川 昌史  |